# **KV25**マテリアリティ ——

日本化薬グループは、ありたい姿「KAYAKU spiritのもと、存在感をもって、永続的に環境、社会、すべてのステークホルダーに幸せや うれしさを提供できる会社であること」の実現に向けて、現状とのギャップを分析し、優先して取り組むべき5つの課題(新事業・新製 品創出、気候変動対応、DX、仕事改革、働き方改革)を全社重要課題としました。

重要課題(マテリアリティ)

また、サステナブル経営の推進にあたり、社内外の視点から当社グループが抱える重要課題を適切に把握し、これをサステナビリティ重要課題と定め、事業活動と連動したサステナビリティ・アクションプランを策定しました。

**KV25**ではサステナブル経営基本方針のもと持続可能な環境・社会の実現に貢献するため、全社重要課題を最優先で取り組み、それを補完するかたちでサステナビリティ重要課題に取り組みます。全社重要課題とサステナビリティ重要課題を合わせた総称を「**KV25**マテリアリティ」としています。



※ 各サステナビリティ重要課題の前についている■は、全社重要課題の取り組みがサステナビリティ重要課題の取り組みにもつながることを示しています。

## 全社重要課題の取り組み ―――

日本化薬グループは「ありたい姿」の実現に向けて、目標と現状とのギャップを分析し、組織横断の全社プロジェクトで優先して取り組むべき5つの課題(新事業・新製品創出、気候変動対応、DX、仕事改革、働き方改革)を全社重要課題として定めました。全社重要課題の取り組みの浸透や各課題解決のスピードアップを図るため、複数の部門から選出されたメンバーによって構成されるM-CFT(マテリアリティ・クロスファンクショナルチーム)で取り組んでいます。

全社重要課題	取り組み内容			
新事業・新製品創出	・「モビリティ」「環境エネルギー」「エレクトロニクス」「ライフサイエンス」の4分野において、3事業領域と連携し既存組織の壁を越えて、新事業・新製品を創出し、ありたい姿の実現に貢献します。			
気候変動対応	温室効果ガス排出量の削減等の地球温暖化防止やカーボンニュートラルの取り組み目標を設定し、各工場・研究所と一体となって気候変動リスク対策に取り組みます。			
DX	全社的にDXを推進し、プロセスの変革で売上の拡大、コストダウンで事業の拡大を図ることが当面の目標です。具体的には、①IT教育や意識改革、②ERPやITインフラ再構築等のIT基盤強化、③研究開発、生産、営業・マーケティング、管理の各業務プロセスにおけるDXに取り組みます。			
仕事改革	グループ経営・事業運営(マネジメント)管理方法や原価管理方法の見直し、あらゆるムダを省く業務改善・原価低減を目的としたA3活動(KAIZEN) <sup>※</sup> を通じた仕事の効率化や生産性の向上により、資産効率と・稼ぐ力の向上に取り組みます。			
働き方改革	「活き活きとした強い会社・いい会社」を目指し、従業員一人ひとりが活力をもって仕事し、従業員のエン ゲージメントが高まるよう働き方改革と人事制度改革に取り組みます。			

※ A3活動(KAIZEN)・・・「原価低減意識」を基本とした、日本化薬グループを「活き活きとした会社」にするための個人と組織の強さ(スキル・専門性)や自律性を養う意識改革活動

# **サステナビリティ重要課題の特定方法** ———

日本化薬グループは、社内外の視点から当社グループが抱える課題を適切に把握し、ステークホルダーの期待や要請に応えていくために、2019年に中期CSR重要課題を特定しました。

2022年4月に中期事業計画KAYAKU Vision 2025 のスタートとCSR経営からサステナブル経営に切り替わるタイミングに合わせて中期 CSR重要課題からサステナビリティ重要課題と名称を改め、事業活動の多様化や社会課題の変化に適切に対応するためにサステナビリティ重要課題を見直しました。

STEP 1

課題項目の 認識  多様化する社会から求められる要請事項についてGRIスタンダードで抽出されているテーマをベースに、 当社グループの前サステナビリティ重要課題(KAYAKU Next Stage 中期CSR重要課題)で設定されて いるテーマを加え、課題項目として設定。

STEP 2

社内/社外意見の ポイント化 A. 外部評価のポイント化

責任投資を推進している複数の国際的な評価機関からの当社への産業別の評価基準、およびSASB<sup>※</sup>の産業別の要求基準を、課題項目と紐付けし外部評価としてポイント化。

- B. 内部評価のポイント化
- 社内の各事業部門・コーポレート部門の本中計重点テーマを、課題項目と紐付けし内部評価としてポイント化。
- ※ SASB:Sustainability Accounting Standards Board(サステナビリティ会計基準審議会。サステナビリティの開示基準を業種別に策定・公開している米国の非営利団体)

STEP 3

重要課題 マッピング 課題項目「コーポレートガバナンスの強化」、「コンプライアンスの徹底」については"企業存続に関わる最重要課題"として特定し、その他の課題項目はポイント化した外部評価、内部評価によって、重要課題マッピングを作成。ポイントベースでのマップに閾値を入れ、この値以上のものを重要な項目として特定。

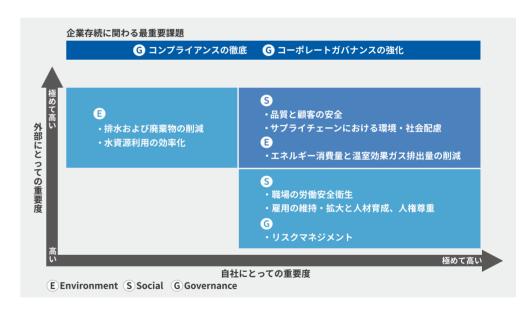
STEP 4 妥当性確認と 承認 特定方法および特定結果について、サステナビリティの専門家である有識者による意見も取り入れながら、当社の意思決定機関であるサステナブル経営委員会においてレビューし、2回にわたる審議を経て承認。

#### サステナビリティ重要課題の取り組みとKPI ————

日本化薬グループは、特定したサステナビリティ重要課題と事業活動を連動させたサステナビリティ・アクションプランを策定しました。合わせてSDG Compassを活用し、SDGsの17目標の紐付けをしています。サステナビリティ・アクションプランのKPIの達成に向けて取り組みを進めていくことで、SDGsの達成とともに持続可能な社会の実現に貢献します。

#### サステナビリティ重要課題

サステナビリティ重要課題は「企業存続に関わる最重要課題」「最重要課題」「重要課題」の3つに分類し、各課題のアクションプラン を定めています。



### **≔** (

# サステナビリティ・アクションプラン

日本化薬グループのサステナビリティ・アクションプランでは、SDG Compassを活用し、各重要課題とSDGs17目標を紐付けています。 当社グループは毎年KPIの進捗状況を管理・開示しサステナビリティ活動を推進することで、環境・社会的価値と経済的価値を創造し、 SDGsの達成(持続可能な社会の実現)と企業価値向上を目指します。

サステナブルマネジメント

	サステナビリティ 重要課題	目指す SDGs	アクションプラン	重要指標(KPI)	2025年度 到達目標	2022年度 結果	2022年度 取り組みに関するトピックス
*	コンプライアンスの徹底	16 THE SEASON	<ul> <li>企業活動を行う上で の基本原則であるコ ンプライアンスを微</li> </ul>	重大コンプライアンス違 反件数 <sup>※1</sup>	0/#	0#	重大コンプライアンス違反なし     コンプライアンス研修は「職場の心理 的安全性」をテーマとして、すべての 国内グループ会社で研修を実施     ずべてのグループ会社へ社内窓口、社 外窓口、規程制定の有無を確認した結 果、海ケグループ会社3社で通報窓口設 圏がないことを把握
			クノライアクスを徹底し、公正な事業運営を遂行する ● 高い倫理観をもつ風通しの良い企業風土を維持・強化する	コンプライアンス研修の 実施率	100%	97%	
				コンプライアンス通報窓口設置率	100%	83%	
企業存続に関わる最重要課題	コーポレートガバナンス の強化		<ul> <li>グループ全体のコーポレートガバナンスを強化し、透明性が高く健全な経営を行う</li> </ul>	取締役会の実効性評価実施回数	1回/年	10	取締役会の実効性評価アンケートを実施し、現状把握・課題の抽出・アクションブランの策定を行い、改善を実行中     適時間示情報、コーポレート・ガバナンス報告書、当社定数の英文開示の拡充     取締役会の運営のDX化を推進     独立社外監査役を1名選任     知的財産方針・知的財産戦略の策定推進(改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応)     人材育成方針・社内環境整備方針の開示の推進(改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応)     人材育成方針・社内環境整備方針の開示の推進(改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応)     と020年度、2021年度は新型コロナウィルス感染症の影響で中央品質診断、品質教育・研修、品質改善活動等はウェブ会議システム等を利用しての活動が中心となっていたが、実地での活動を再開     品質保証、品質向上のための教育活動として、KV25 スタートに合わせて品質マンダラートを作成し、これに沿った各種品質教育を計画的に実施
超				監査部による内部業務監査実施回数	60回/4年間	22回	
最重要課題	品質と顧客の安全	ステムの継続的な 善と、品質がバナ スを徹底すること より、品質管理・ 質保証は制をより 固にする ・ 品質経営を推進し デジタル化による 産効率の向上とエ	品質マネジメントシステムの継続的な改善と、品質ガバナンスを徹底することにより、品質管理・品質管理・品質に延続したより、品質のは対象をより強い。	重大顧客苦情件数※2	0件	1件	
				重大工程異常件数 <sup>※2</sup>	0件	1件	
		【	<ul><li>サステナブル調達ガイドラインに基づき、環境面や社会面</li></ul>	サステナブル調達ガイド ラインに対する同意確認 書の回収率	(単)90%以上	(単)99%	購入額上位の約300社にサステナブル調達ガイドラインの内容に沿ったアンケートを送付し、回答のあった229社のうち、226社から同意確認書を回収     回収したサステブル調達アンケート内容から人権や環境に問題のあるお取引先は確認されなかったため、改善計画の策定依頼は出していない。2023年度に計画している監査先においては回答内容の確認を予定
	る環境・社会配慮		に配慮したサプライ チェーン・マネジメ ントを実践する	お取引先へのアンケート を利用した改善計画の策 定・実施	(単)進捗状況を 開示	-	

	サステナビリティ 重要課題	目指す SDGs	アクションプラン	重要指標(KPI)	2025年度 到達目標	2022年度 結果	2022年度 取り組みに関するトビックス
	6 :		<ul> <li>省エネルギー・地球 温暖化対策活動を推 進し、2030年度環境</li> </ul>	温室効果ガス排出量 (Scope 1+2)	(2030年度達成 目標) 88,324トン以下 (2019年度比 32.5%以上削 減) (2022年度達成 目標) 119,252トン以 下	108,107トン	温室効果ガス排出量削減の取り組みの一環として、MFCAおよび太陽光発電PAモデル導入を推進     廃棄物発生量は2021年度と比較し3.3%減少     これまで埋立処理をしていた廃棄物のリサイクル化をさらに推進し、リサイクル率は85.0%。ゼロエミッション率は0.8%に改善     環境問題に配慮した製品・技術の開発状況     【セイラティシステムズ事業】軽量化シリンダー型インフレータ・グリーンプロペラントMGGの開発【ボラテクノ事業】     軽量化シリンダー型インフレータ・グリーンプロペラントMGGの開発【ボラテクノ事業】     工作工程改善、製品設計改良による廃棄物および排出処理エネルギーの削減を推進【機能性材料事業】     てFP用熱極化樹脂について、展開可能性のある開発品を顧客に紹介バイオ由来原料を使用した熱硬化樹脂の開発。極熱用ノンフェノール顕色剤の上市および拡版 PLA(生分解性)繊維用染料の開発施熱に変熱用ノンフェノール顕色剤の上市および拡版 PLA(生分解性)繊維用染料の開発加速【検集事業】水素製造用触媒の共同研究を推進 原英工場の石油燃料ポイラーのLPG化が進行中マラリアルズ・インフォマティクス技術を活用した原料使用量削減および目的物収量向上に寄与する触媒の開発
		7 2846-88600		VOC排出量	(単)実績を開示	(単)38.7トン	
最	エネルギー消費量と温室 効果ガス排出量の削減	Ø:		COD排出量	(単)実績を開示	(単)171.8トン	
重要課	排水および廃棄物の削減	9 ##1555#**	目標を達成する  • 2050年度カーボンニ	廃棄物発生量	(単)実績を開示	(単)27,621トン	
題	水資源利用の効率化	13 :::::	2 20分4度。 ユートラル達成に向けた課題の抽出と戦略を明確化する	リサイクル率	(単)80%以上	(単)85.0%	
				ゼロエミッション率	(単)1%以下	(単)0.8%	
				SBTに批准した目標設定 と具体的施策の検討・実 施	進捗状況を開示	CDP (気候変動) でA-評価を 獲得 Scope 3算定精 度向上を実施	
				TCFD提言に沿った情報 開示	進捗状況を開示	情報開示済み	
				環境問題に配慮した製 品・技術の開発推進	進捗状況を開示	トピックスに掲載	

サステナブルマネジメント

	サステナビリティ 重要課題	目指す SDGs	アクションプラン	重要指標(KPI)	2025年度 到達目標	2022年度 結果	2022年度 取り組みに関するトピックス
	職場の労働安全衛生	3	安全衛生に関する基本ルールの徹底と、設備や作業手順の改善により、安全撮影をより強固にする     健康経営を推進し、従業員が活きろ・ライフ・バランスのとれた職場環境を提供する	重大事故災害件数※3	0件	0件	事業場内グループ会社および協力企業を含めて日本化薬単体での休業災害発生なし     健康経営優良法人を再取得。継続するよう従業員の健康維持増進活動を推進     有給休暇取得率は目的速成とはならなかったが、これまでと同様に社内イントラネットによる啓繁・各事業場の人事労務担当者からの積極的な声かけ、有給休暇取得奨励日の設定等を実施     メンタルヘルス研修は3ヶ年計画の3年目終了     定開健康診断受診率は100%を継続     エンゲージメントサーベイ、健康経営度調査実施会社へのヒアリング調査に着手、次年度に本格導入予定
				健康経営優良法人(大規模法人部門)認定取得	(単)認定取得継 続	(単)健康経営優 良法人(大規模 法人部門)2023 の認証を取得	
				有給休暇取得率	(単)70%以上	(単)63.7%	
				メンタルヘルス研修受講 率	(単)100%	(単)100%	
				定期健康診断受診率	(単)100%	(単)100%	
				アンケートを利用した従 業員満足度の把握とその 向上	(単)進捗状況を 開示	-	
		多様な人材の採用と     多様な人材の採用を     よび交流により。     なび交流により。     イパーシティ&イン     クルージョンを推進     する     総統的な人材育成に     核りの他承・強化と     人材有の。     総式の大材育成に     核りののグローバル化     を図     電差にしめサブ     るあらゆる人人の事業     営を行う     まなり、大事業業は     は、以表す対応     は、原材料の適は確     は、以表す対応     は、原材料の適は確     は、以まず対極     は、以まず、対応     は、より、まず、対応     は、原材料の適はでは     は、は、原材料の適はでは     は、より、まず、は、まず、は、まず、は、まず、は、まず、は、まず、まなり、まず、まなり、まず、まなり、まず、まず、まなり、まず、まなり、まず、まなり、まず、まず、まず、まず、まず、まず、まず、まず、まず、まず、まず、まず、まず、	効果的な人材配置および交流により、ダイバーシティ&インクルージョンを推進する。 継続的な人材育成により、ものづくり技術力のが強化と人材のグローバル化を図る ・ 従業員をはじめサブラるあらゆした事業運	女性管理職比率※4	(単)10%以上	(単)9.0%	<ul><li>人事労務担当者向けに、女性管理職に</li></ul>
重要課題	雇用の維持・拡大と人材 育成、人権尊重			障がい者雇用率	(単)法定雇用率 達成	(単)1.98%	よる自身のキャリア形成に関する議演 会を実施。女性産業医による女性に特 化した整線増進に関する講演会を実施。女性従業員向け研修の開催を検討 ・障がい者雇用の取り組みとして特別支援学校との連携(協働)を機跡。職域 の拡大、障がい者雇用の取り組みが先行している企業への見学と意見交換会 による情報収集を実施 ・「日本化薬グループ人権方針と人権デュー・ディリジェンスの仕組み」につ いてモラーニング研修を実施 ・人権リスクの特定・評価に向けて経営 層での勉強会を実施。リスクの特定・ 評価は実施方法を再検討することを決定
				従業員一人当たり教育研 修投資額	(単)実績を開示	(単)83,002円/人	
				従業員一人当たり教育研 修時間	(単)実績を開示	(単)14.9時間	
				人権に関する研修回数	1回以上/年	10	
				人権デュー・ディリジェ ンス 「人権への影響評価」実 施率	(単)2022年度 100% (連)2025年度 100%	(単)未完了	
	リスクマネジメント		事業等のリスクコントロ ール活動・TOP5リスク コントロール活動実施率	100%	100%	日本化薬単体の各工場、すべてのグループ会社でTOP5リスクコントロール活動を実施(トレンドとしては地政学的なリスクの高まりから、原材料価格の高騰、原材料の供給途絶等のリスクが増加)     国内2工場と海外4グループ会社においてTOP5リスクで重要と思われる点についてヒアリングを実施     国内では地震発生時のBCP訓練とし	
			確保する	BCP訓練実施回数	1回以上/年	20	<ul> <li>国内では30歳9年1000BCF副隊として、導入した緊急時通信システムを2021年度に引き続き利用して実施</li> <li>中国グループ会社で現地コンサル指導の下、BCP訓練を実施</li> </ul>

- ※1 倫理委員会にて重大と判断した案件数
- ※2 損失額1,000万円以上
- ※3 3人以上の同時休業災害または死亡災害
- ※4 2024年度末の目標値

# サステナビリティ重要課題のリスクと機会 ―――

日本化薬グループは、特定したサステナビリティ重要課題のリスクと機会を認識した上で、リスクを低減し、新たな事業成長につながる 機会を取り込むことで、持続可能な社会の実現とさらなる企業価値の向上を目指します。

	サステナビリティ 重要課題	リスク	機会
企業存続に関わる最	コンプライアンスの徹底	<ul> <li>コンプライアンス違反による社会的信用の失墜</li> <li>企業価値の毀損</li> <li>事業活動の低迷</li> </ul>	ステークホルダーからの信頼獲得
取重 要課題	コーポレートガバナンスの強化	事業活動の停滞	<ul><li>ステークホルダーからの信頼獲得</li><li>社会的信用力の向上</li></ul>
	品質と顧客の安全	<ul><li>品質不適合の発生による顧客の離反</li><li>品質管理、表示等の法令違反による社会的信用の失墜</li></ul>	高品質の製品供給による顧客の信頼獲得
	サプライチェーンにおける環境・社会配慮	お取引先の違法行為・コンプライアンス違反に よる企業活動への悪影響	<ul><li>サステナブルな社会の実現への貢献</li><li>長期的な競争力の向上</li></ul>
最重要課題	エネルギー消費量と温室効果ガス排出量の削減 排水および廃棄物の削減 水資源利用の効率化	(移行リスク)  ・ 排出規制強化の影響による操業コスト増大  ・ 電力およびLPG等の価格上昇  ・ 排出規制強化の影響による原料価格上昇  ・ 環境情報開示およびLCA算定等のコスト増加  【物理リスク】  ・ 台風、大雨、高潮等による洪水被害によるコスト増加  ・ 水不足による操業への影響  ・ 気温上昇による労働生産性の低下	スマートシティー化やDXの伸張により、半導体関連素材、低消費電力に寄与する材料素材が拡大     次世代蓄電池向け材料が拡大     モビリティの躯体の軽量化に寄与する樹脂素材が拡大     EVの軽量化のための光学材料や自動運転化のためのセンサー材料も伸張     気温の上昇が見込まれ、農業の生産性の維持向上に寄与するバイオスティミュラントや、新たに問題化する害虫への既存農薬の適用拡大
	職場の労働安全衛生	<ul><li>事故・不祥事の発生による社会的信用の失墜</li><li>労働生産性の低下や人材の流出</li></ul>	<ul><li>安全文化の醸成</li><li>従業員のワークエンゲージメントの向上</li></ul>
重要課題	雇用の維持・拡大と人材育成、人権尊重	人材の属性やスキルの偏りによる発想の画ー化と新たな事業機会の喪失     人権侵害による社会的信用の失墜	<ul><li>価値観の多様化による新たなアイディアを生み出す企業風土の醸成</li><li>サステナブルな社会の実現への貢献と長期的な競争力の向上</li></ul>
	リスクマネジメント	経営に関わるリスクの増加	非常時の事業継続性の確保